

子ども・子育て支援に関するニーズ調査 (結果概要)

1. 調査目的

本調査は、第3期野洲市子ども・子育て支援計画の策定にあたり、子育て中の市民の現状や意見、子育て支援に関するニーズなどを把握し、市や国・県の子ども・子育て支援施策の検討に利用することを目的として実施したものです。

2. 調査方法

- 調査地域 : 市全域
- 調査対象者 : 市内在住の就学前の児童を養育する保護者（以下「就学前児童」という。）
市内在住の小学校の児童を養育する保護者（以下「小学校児童」という。）
- 調査基準日 : 令和5年11月17日（金）
- 調査期間 : 令和5年12月7日（木）～令和5年12月27日（水）
- 調査方法 : 郵送による配布、回収（WEBからの回答も可能とした。）
- 回収状況 :

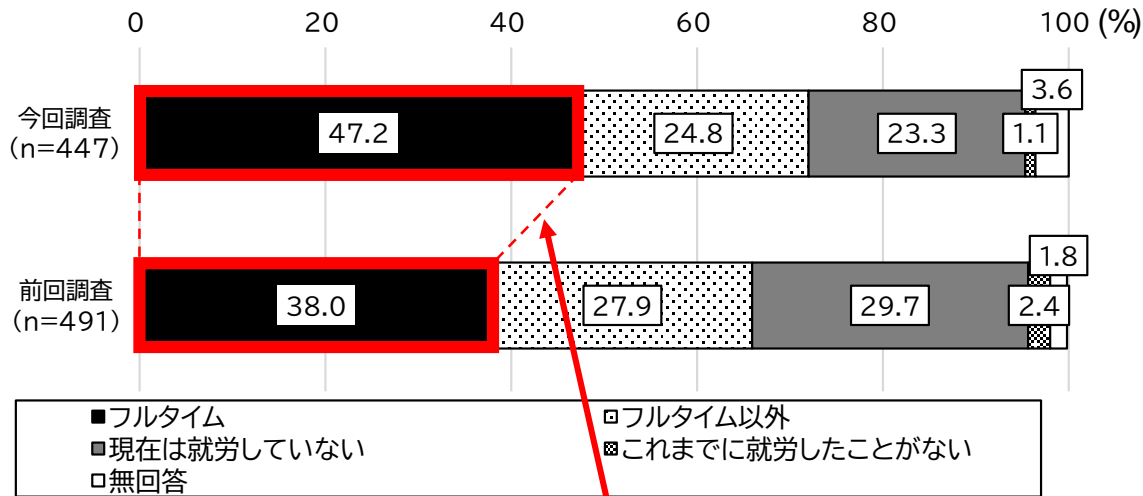
| 種別 | 配布数 | 有効回収数 | 有効回収率 | <参考> 前回の有効回収率 H31.11月～12月 |
|-------|-------|------------------------------|------------------------------------|---------------------------------|
| 就学前児童 | 1,000 | 450 郵送回収分225 WEB回答分225 | 45.0% 郵送回収分22.5% WEB回答分22.5% | 49.3% |
| 小学校児童 | 1,000 | 482 郵送回収分249 WEB回答分233 | 48.2% 郵送回収分24.9% WEB回答分23.3% | 46.4% |

I 就労環境の変化に関すること

1. 就労状況

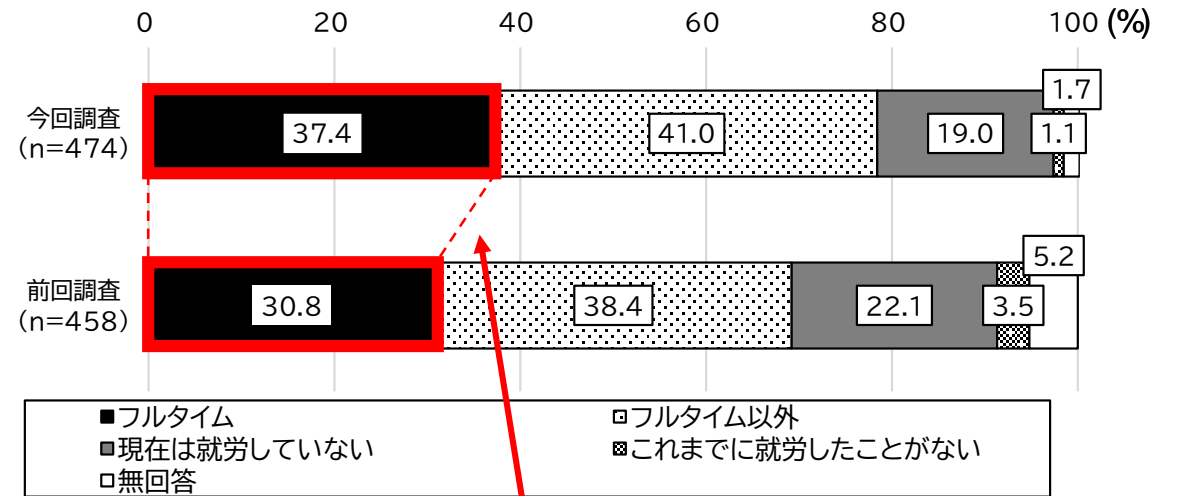
就学前児童保護者、小学生保護者いずれにおいても、フルタイム以外(パートタイム・アルバイト等)や未就労の母親の割合が減少し、フルタイム就労が増加しています。父親のほうは約9割がフルタイム就労であることから、父母ともフルタイム就労の共働き世帯が増加しているものと考えられます。

■就学前児童保護者(母親)



フルタイム就労が9.2%増加

■小学生保護者(母親)



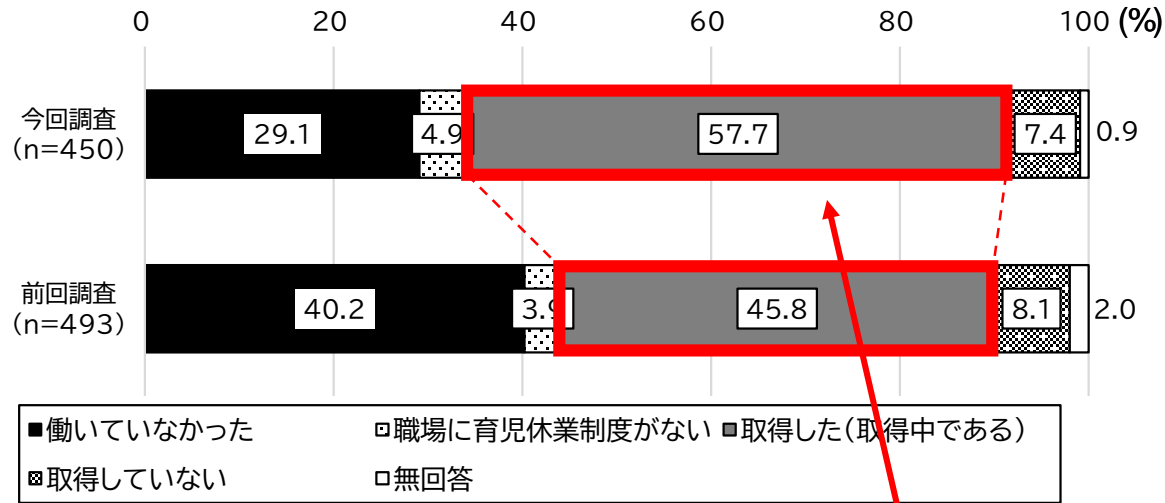
フルタイム就労が6.6%増加

2. 育児休業

育児休業の取得率が、父母とも大きく増加しています。母親においては、フルタイム就労が進んだことによる影響と考えられます。父親においては、就労状況が大きく変化したわけではないため、男性が育児休業をとることが社会に定着してきているものと考えられます。

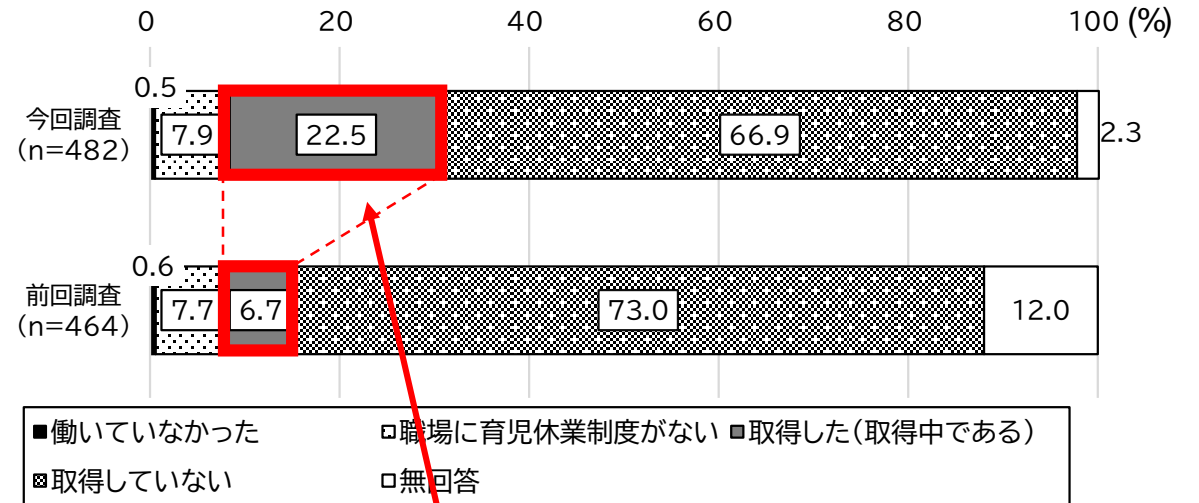
ただし、いずれも取得率であり、取得期間についてはまだ男女で格差がある可能性があります。

■就学前児童保護者(母親)



取得率が11.9%増加

■就学前児童保護者(父親)

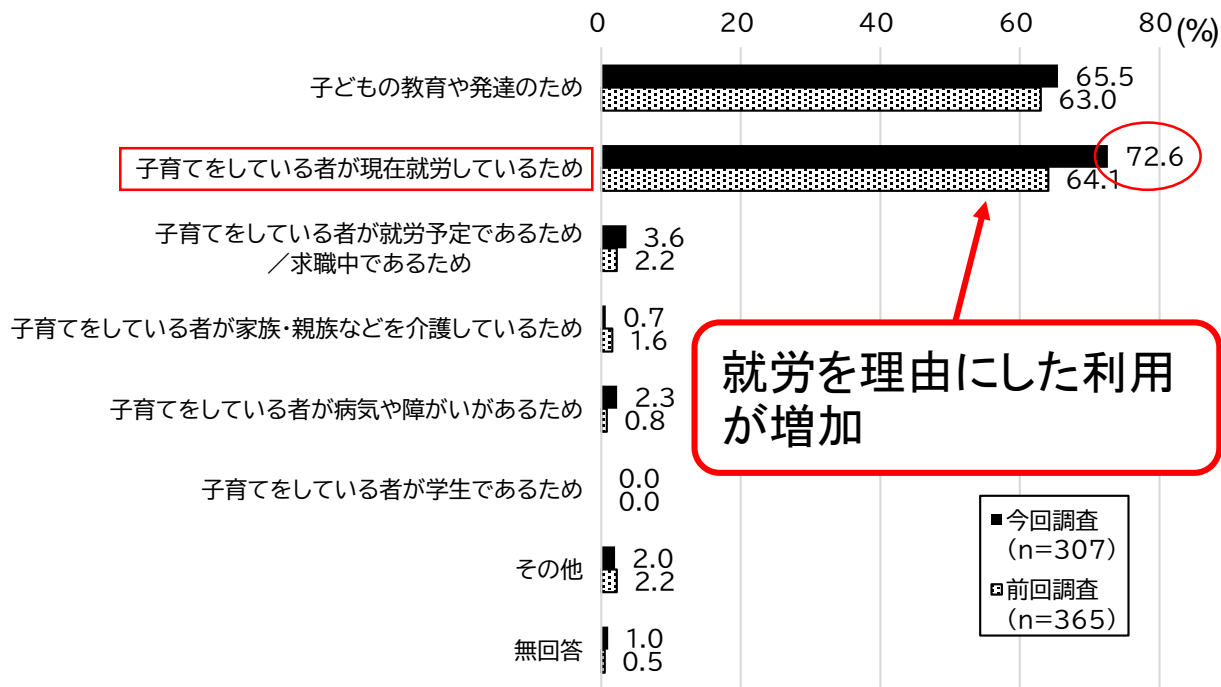


取得率が15.8%増加

3. 保育ニーズ①

共働き世帯の増加に伴い、就労を理由として教育・保育施設を利用する割合や、家庭での保育は考えられないという割合が増加しています。

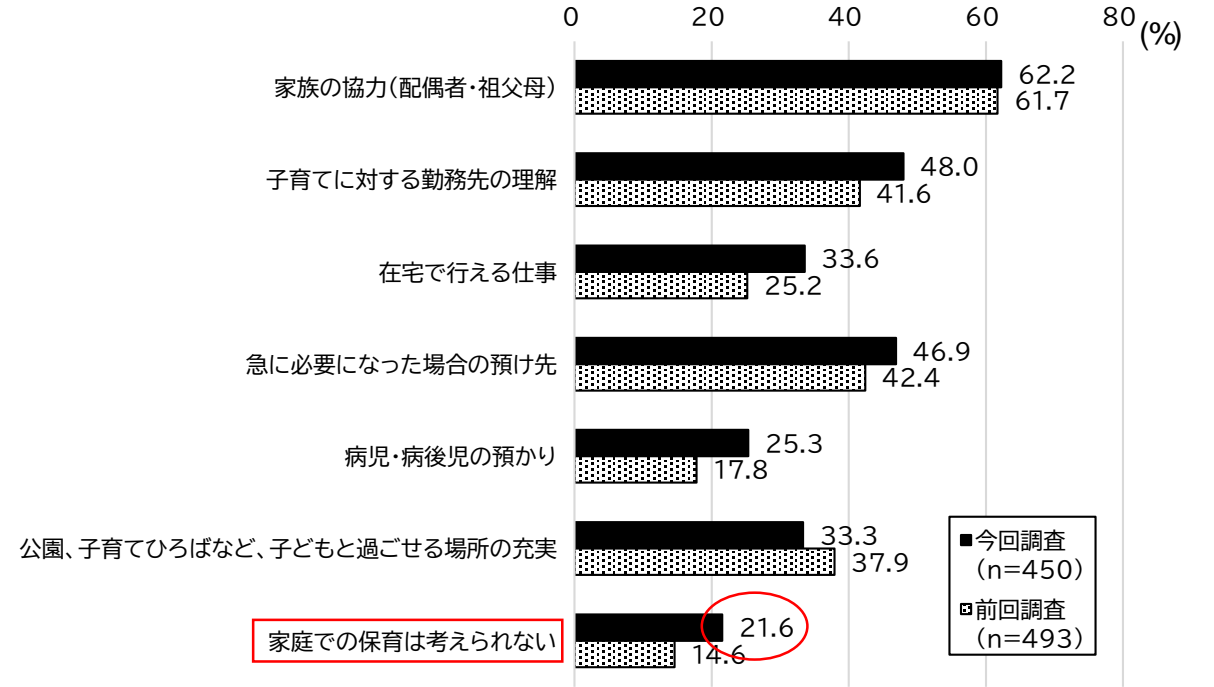
■教育・保育施設を利用している理由



就労を理由にした利用が増加

■家庭で保育するために必要な条件

家庭では保育は難しいと考える割合が増加

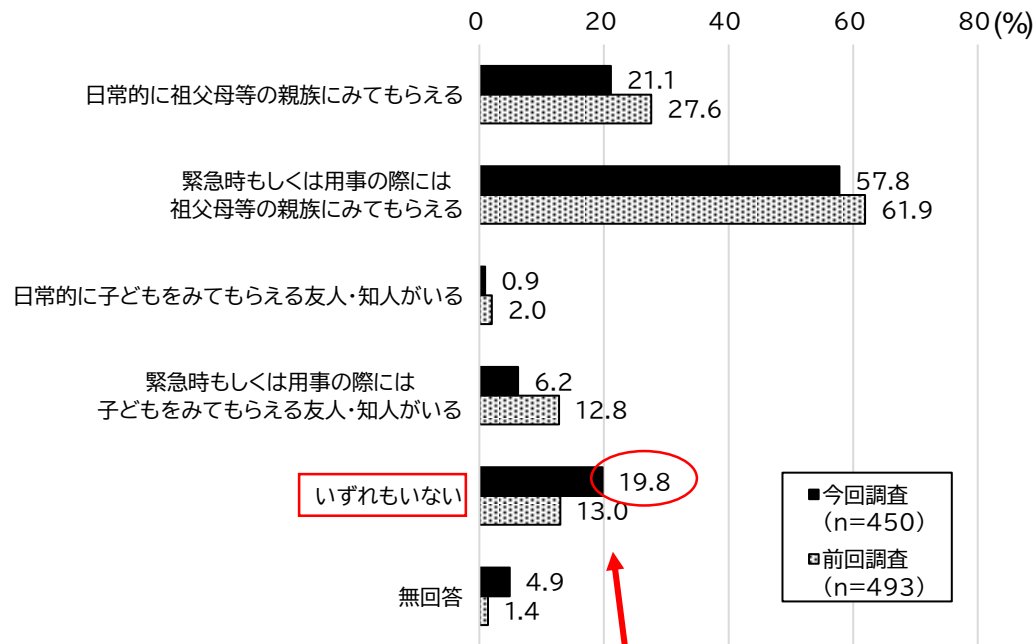


家庭での保育は考えられない

3. 保育ニーズ②

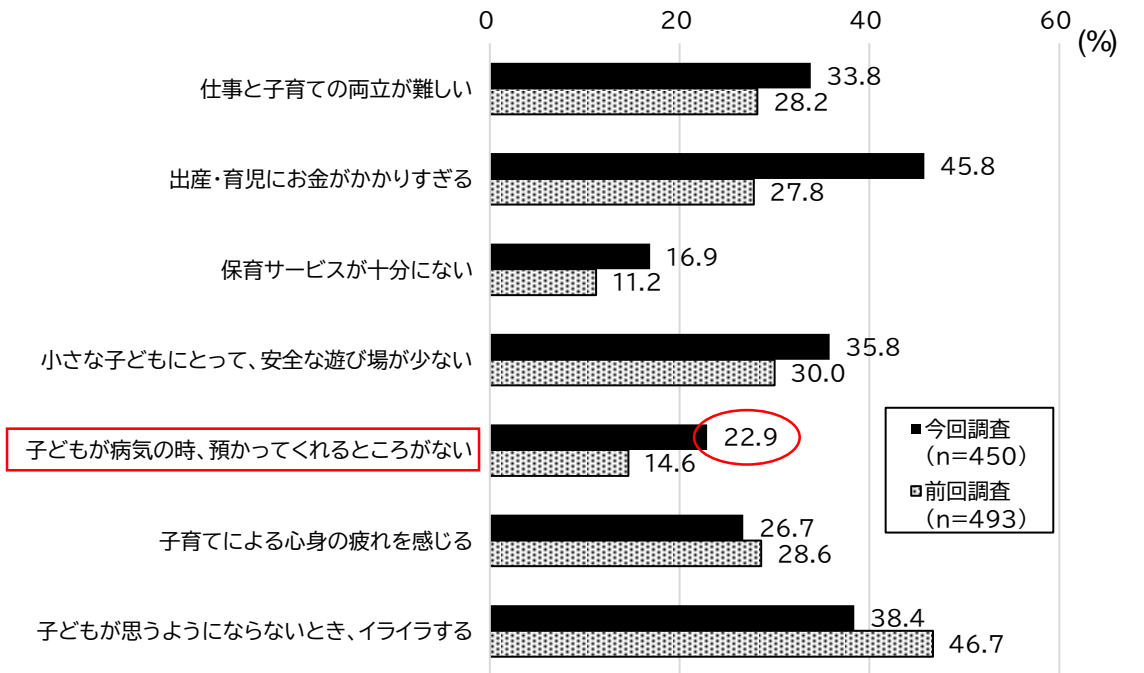
緊急時に子どもをみてくれる人が誰もいない世帯が増加しています。そのため、子どもが病気の際に預けるところがないことへの不安が、前回調査よりも高くなっています。

■ 子どもをみてもらえる親族・友人の有無(就学前児童保護者)



いずれもいない割合が増加

■ 日頃の悩みや不安(就学前児童保護者)



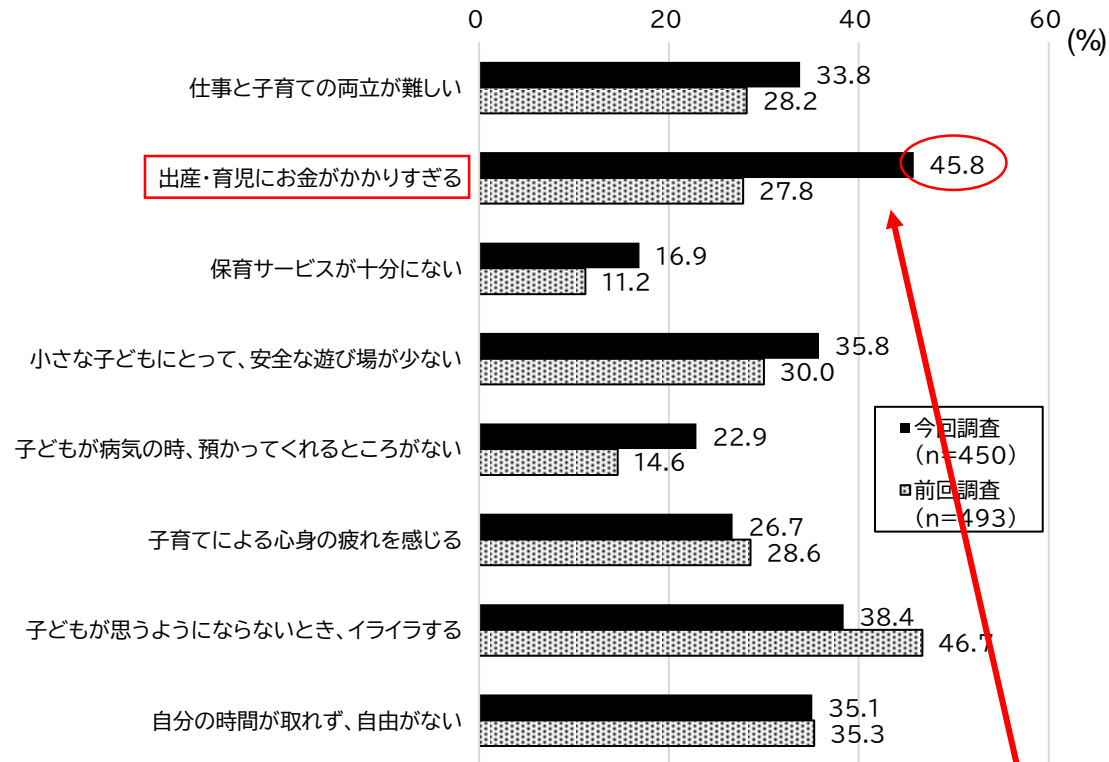
病気の際に預けるところがないが増加

Ⅱ 経済的な負担に関すること

1. 経済的な負担感

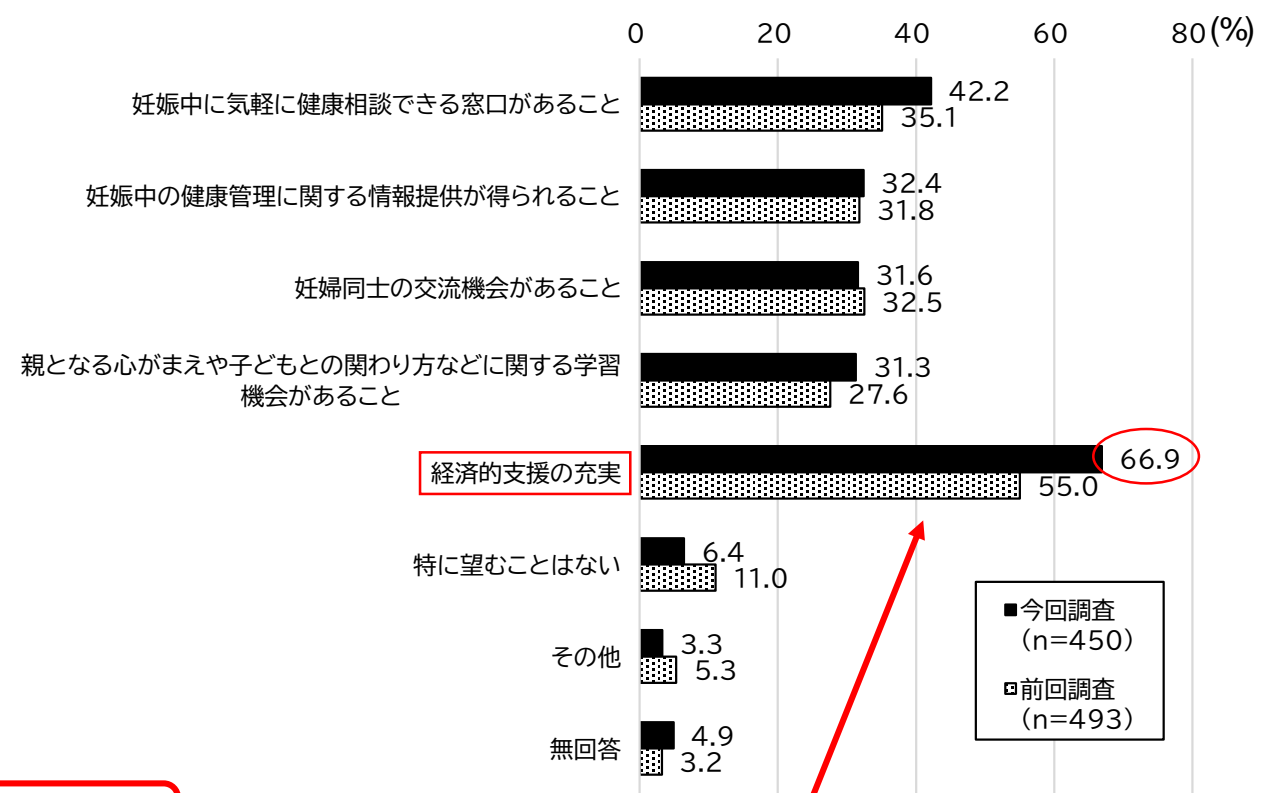
物価高騰等、昨今の経済状況の変化の影響がみられ、「出産や育児にお金がかかりすぎる」悩みを持つ世帯や、「経済的支援の充実」を望む世帯が増加しています。

■日頃の悩みや不安(就学前児童保護者)



出産・育児にお金がかかりすぎる が18.0%増加

■妊娠期から出産期に望む支援(就学前児童保護者)



経済的支援の充実 が11.9%増加

2. 貧困に関わる課題①

日常的・緊急時に子どもをみてもらえる人がいないという世帯は、経済的に苦しい世帯のほうが割合が高くなっています。貧困と社会的孤立は関連することが様々な研究でも指摘されており、本市においてもその傾向がみられます。

■ 子どもをみてもらえる人の有無(家庭の経済状況別)

| | | 合計(人) | 割合(%) | | | | | 無回答 |
|-----|-----------|-------|--------------------|-----------------------------|------------------------|---------------------------------|--------|-----|
| | | | 日常的に祖父母等の親族にみてもらえる | 緊急時もしくは用事の際には祖父母等の親族にみてもらえる | 日常的に子どもをみてもらえる友人・知人がいる | 緊急時もしくは用事の際には子どもをみてもらえる友人・知人がいる | いずれもない | |
| 就学前 | 全体 | 450 | 21.1 | 57.8 | 0.9 | 6.2 | 19.8 | 4.9 |
| | ふつう以上 | 287 | 24.0 | 60.3 | 1.0 | 7.3 | 17.8 | 0.7 |
| | やや+とても苦しい | 145 | 17.9 | 58.6 | 0.7 | 4.8 | 25.5 | 3.4 |
| 小学生 | 全体 | 482 | 27.2 | 57.1 | 1.9 | 15.8 | 14.7 | 2.1 |
| | ふつう以上 | 321 | 28.7 | 57.0 | 2.8 | 17.8 | 13.4 | 0.9 |
| | やや+とても苦しい | 152 | 25.0 | 57.9 | 0.0 | 10.5 | 18.4 | 2.0 |

経済的に苦しい世帯のほうが、子どもをみてもらえる人がいない割合が高い

2. 貧困に関わる課題②

経済的に苦しい世帯のほうが、様々な悩みや不安を感じやすい傾向がみられます。

「出産・育児にお金がかかりすぎる」は、いずれの年代も経済的に苦しい世帯の割合が特に高くなっていますが、「仕事と子育ての両立が難しい」や「自分の時間がとれず、自由がない」など、経済状況の影響がみられます。その他にも、子どもの年代によって課題感は異なりますが、経済状況が苦しい方が悩みを持つ割合が高くなっています。

■ 日頃の悩みや不安(家庭の経済状況別)

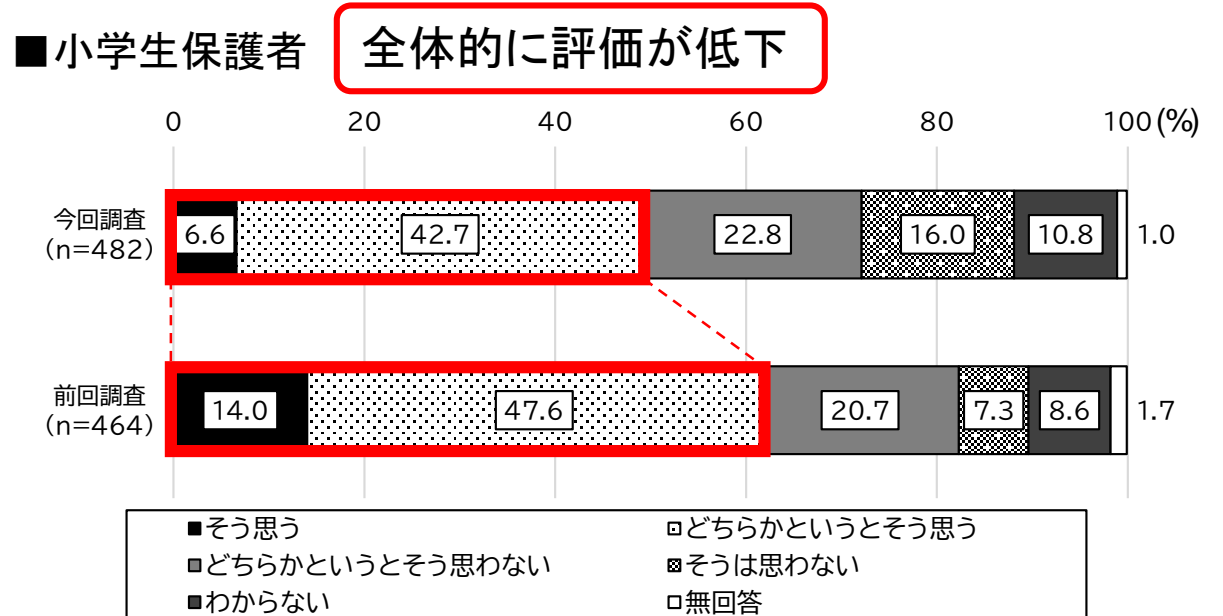
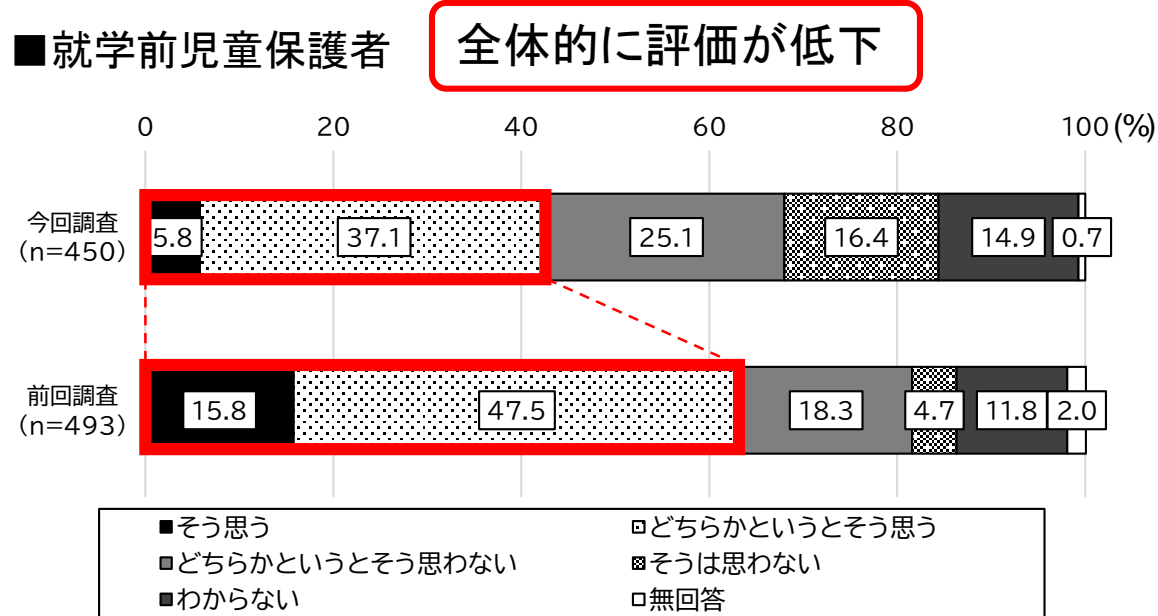
| | | 合計 | 割合(%) | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|-----|-----------|-----|-------------------|-------------|---------------|-----------------|-----------------|-------------------------|--------------|-----------------------|------------------------|---------------------|-----------|-----------------|------------------------|--------------------------|--------------------------|-----------------|--------|----------------------------------|
| | | | 子どもの育て方、接し方がわからない | 家族の協力が得られない | 仕事と子育ての両立が難しい | 出産・育児にお金がかかりすぎる | 不安や悩みを相談する相手がない | 子育ての大変さを、周囲の人にわかってもらえない | 保育サービスが十分でない | 小さな子どもにとって、安全な遊び場が少ない | 子どもが病気の時、預かってくれるところがない | 子どもを通じてのつきあいがわずらわしい | 子育ての仲間がない | 子育てによる心身の疲れを感じる | 子どもが思うようにならないとき、イライラする | 子育てに追われ、社会から孤立しているように感じる | 同じ年齢の子どもと比較すると発育・発達状況が心配 | 自分の時間が取れず、自由がない | かどつか不安 | 小学校に進学するにあたって集団生活や授業に対応できるかどつか不安 |
| 就学前 | 全体 | 450 | 13.3 | 7.8 | 33.8 | 45.8 | 7.1 | 7.1 | 16.9 | 35.8 | 22.9 | 10.0 | 6.4 | 26.7 | 38.4 | 10.0 | 16.0 | 35.1 | 23.8 | 6.0 |
| | ふつう以上 | 287 | 13.2 | 7.3 | 31.4 | 35.2 | 4.9 | 4.5 | 14.3 | 34.5 | 19.9 | 8.4 | 5.9 | 27.9 | 41.8 | 9.4 | 14.6 | 32.8 | 23.3 | 7.3 |
| | やや+とても苦しい | 145 | 15.2 | 9.7 | 42.8 | 72.4 | 12.4 | 13.1 | 24.1 | 42.8 | 31.7 | 14.5 | 8.3 | 27.6 | 36.6 | 12.4 | 20.7 | 44.1 | 27.6 | 4.1 |
| 小学生 | 全体 | 482 | 9.1 | 4.6 | 28.6 | 35.9 | 4.1 | 6.0 | 9.8 | 40.7 | 14.9 | 12.4 | 2.9 | 18.0 | 37.6 | 5.2 | 13.7 | 23.2 | 21.4 | 7.1 |
| | ふつう以上 | 321 | 8.4 | 3.7 | 23.4 | 26.8 | 1.9 | 3.7 | 10.0 | 38.6 | 13.1 | 11.2 | 1.6 | 15.3 | 34.0 | 5.0 | 10.6 | 19.0 | 15.9 | 3.7 |
| | やや+とても苦しい | 152 | 11.2 | 6.6 | 40.8 | 55.9 | 9.2 | 10.5 | 9.9 | 46.1 | 19.7 | 15.1 | 5.9 | 25.0 | 44.7 | 5.3 | 21.1 | 31.6 | 32.2 | 14.5 |

Ⅲ 野洲市への評価

1. 野洲市は子育てしやすいまちか

前回調査と比較して、子育てをしやすいという割合が減少、そうは思わないという割合が増加しています。

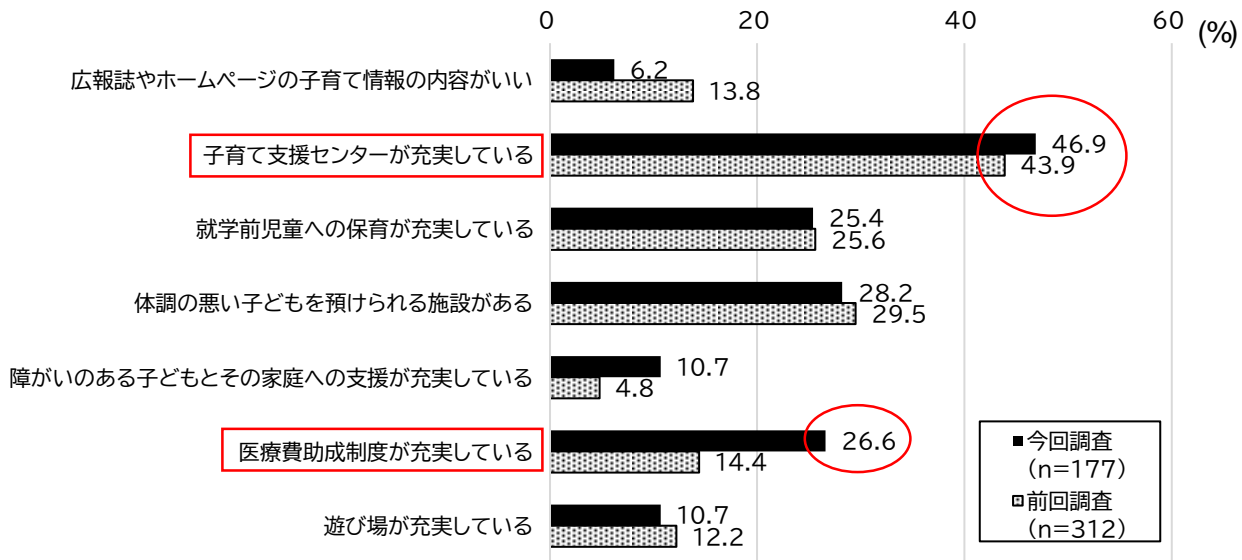
全体として、評価が低下していると考えられます。



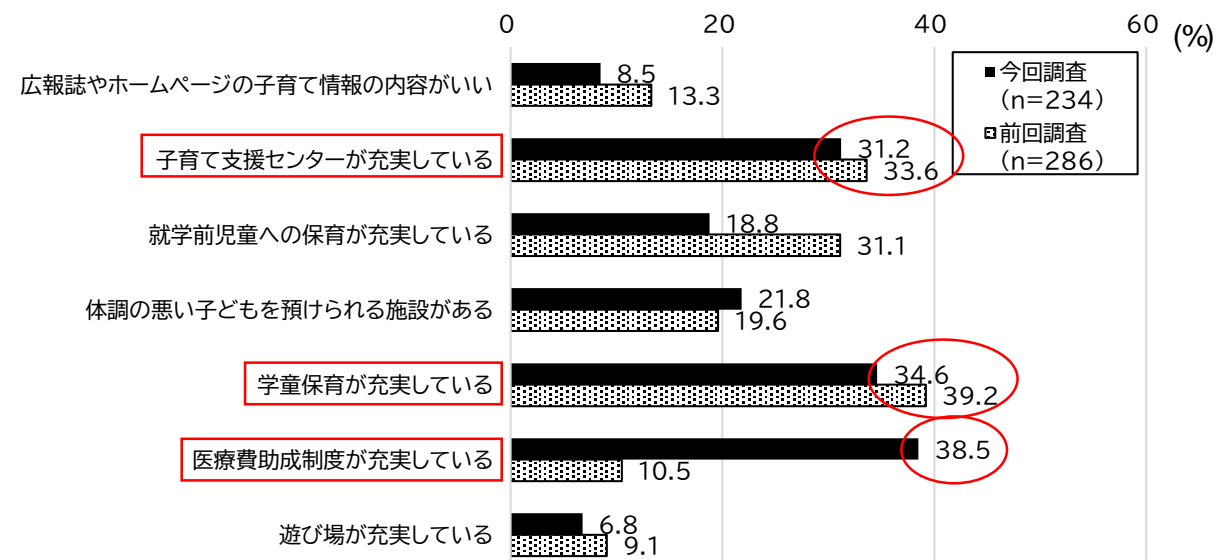
2. 子育てしやすい理由

子育て支援センター、学童保育の評価が高くなっています。また、医療費助成制度が前回調査よりも大幅に評価を高めており、近年の市の医療費助成制度拡充が好意的に受け止められているものと考えられます。

■就学前児童保護者(抜粋)



■小学生保護者(抜粋)



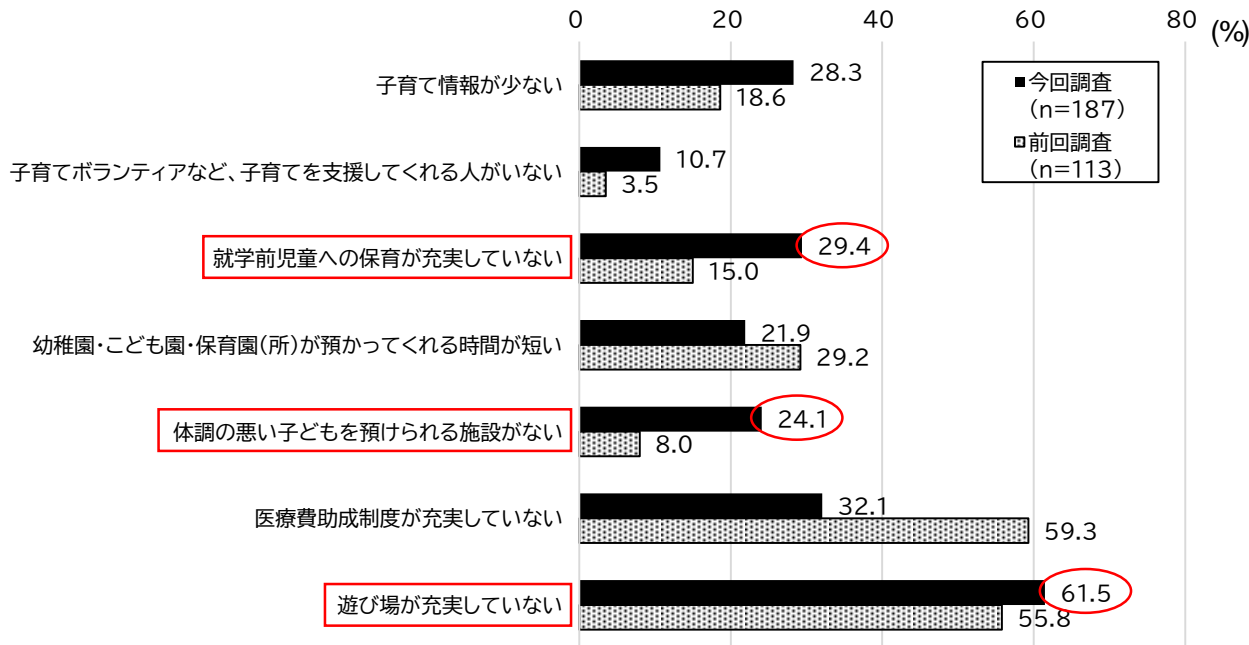
- ・子育て支援センターの充実への評価が高い
- ・医療費助成制度の充実への評価が大幅に増加

- ・医療費助成制度の充実への評価が大幅に増加、最も評価の高い項目になってる
- ・学童保育や子育て支援センターの評価も高い

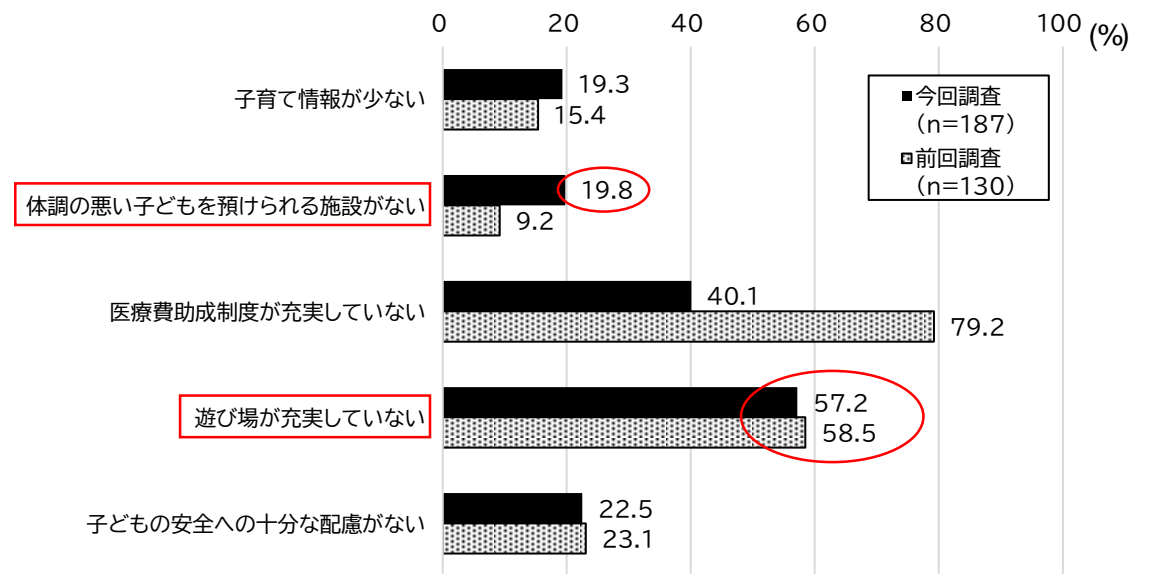
3. 子育てしやすいと思わない理由

遊び場が充実していないことへの不満は、前回調査と同様高いものとなっています。また、共働き世帯の増加の影響で、就学前児童への保育や体調不良の子どもの預け先が十分でないという不満が高まっています。

■就学前児童保護者(抜粋)



■小学生保護者(抜粋)



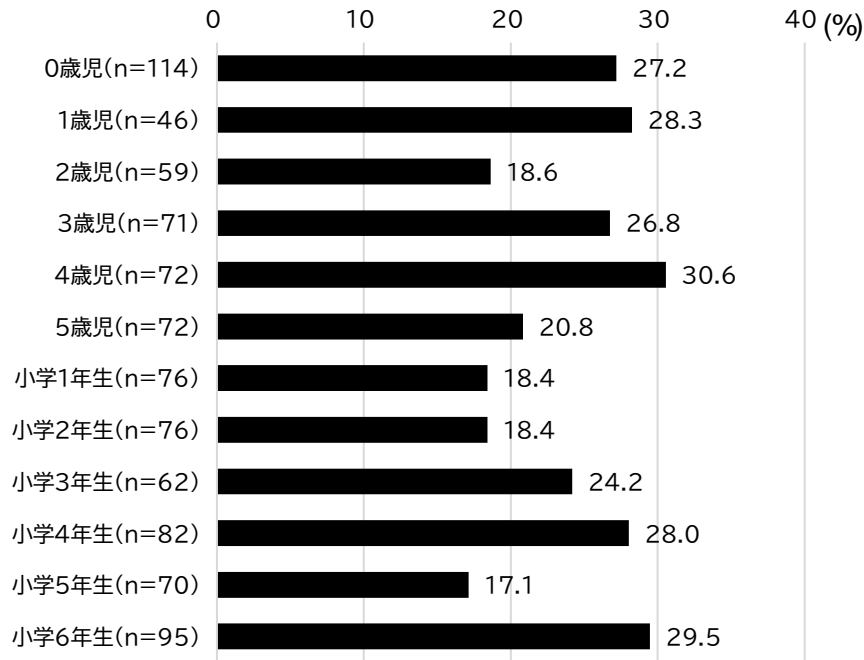
- ・遊び場が充実していないことへの不満が高い
- ・保育や体調不良の子どもの預け先がないことへの不満が高まっている

- ・遊び場が充実していないことへの不満が高い
- ・体調不良の子どもの預け先がないことへの不満が高まっている

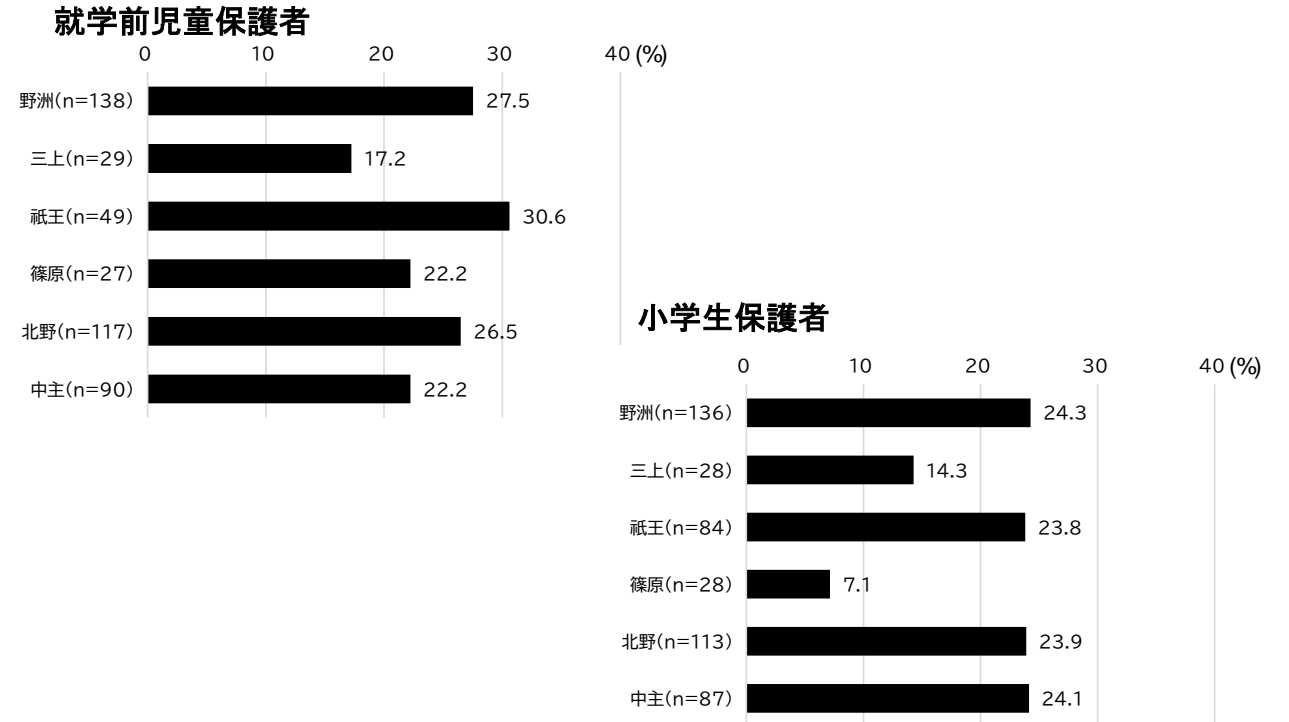
4. 遊び場への不満

遊び場が充実していないことへの不満は、地区ごとに見た場合に、比較的人口の多い地区で不満が高い傾向がみられます。

■年齢別 遊び場に不満のある割合



■地区別 遊び場に不満のある割合



・年齢ごとに割合の差はあるが、特定の要因によるものとは考えられない

・就学前児童保護者では野洲・祇王・北野地区が高くなっている
・比較的人口の多い地区で不満が高い傾向がある

まとめ(分析結果)

1. 共働き世帯の増加に伴い、保育ニーズの高まりがみられます。
2. 緊急時であっても子どもをみてもらえる人がいない世帯が増加しており、子どもの体調不良時の預け先を必要と考える世帯が増加しています。
3. 育児に係る経済的な負担感が増加しており、物価高騰の家計への影響がうかがえます。
4. 家計が苦しいと感じる世帯は、そうでない世帯よりも、子育てに関する様々な悩みや不安を多く抱えています。
5. 医療費助成制度の拡充は子育て世帯に高く評価されていますが、遊び場や保育の拡充を求める声も多くみられます。